



ノバルティス ファーマ株式会社



だれも分かってくれない!

思春期の子どもにとって、親ががんの患者であるということ



思春期の子どもをもつあなたががんと診断されたとき、あるいは家族のうちのだれかががんと闘っているとき、私たち親は子どもたちに「いつ、どのようなことを、どのように」説明すればいいのか不安になると思います。特に思春期の子どもは、子どもから大人になる発達段階において、往々にして精神的に不安定な状態であるため、コミュニケーションが難しいことが多くなります。

あなたは思春期の子どもをサポートするのに最も良い手段は何なのだろうと考え、多くの疑問を抱いているかもしれません。「子どもにがんであることを伝えることが本当にいいのか?」「がんであると伝えれば、子どもは必要以上に心配するのではないか?」「伝えるとすれば、どの程度まで話をすればいいのか?」「子どもが好ましくない反応や行動をしたらどうしよう?」

この小冊子はこのような疑問の多くにお応えし、思春期の子どもががんと向き合うのをサポートする親へのアドバイスを提供しています。私たち親は子どもたちに、健やかで、前向きな大人になってほしいと願うものです。今回、あなたやあなたのご家族ががんと診断されたことは、子どもが困難に立ち向かい、不安をコントロールし、逆境も人生の糧として、生きて行く方法を身につける絶好の機会なのです。子どもにこのような機会を与える体験として、がんはふさわしくないとお考えかもしれませんが、あなたががんとあるという事実は、たしかなのです。この機会を活かして、彼らが自分自身できちんと問題に立ち向かえること、そして、親ががんとある体験をしたからこそ、人生をより良く生きることができると信じ、思春期の子どもをサポートしてあげてください。

※ 本誌に登場する人物名はすべて仮名です

1. がんについて思春期の子どもに話をする	P.4
2. 思春期の子どもが親のがんとつきあっていくのをサポートする	P.8
3. 思春期の子どもが親と話そうとしないときは	P.10
4. 理解を示しながら、一貫性を保つ	P.12
5. 家族より友だちのほうが大切?	P.16
6. 思春期の子どもの行動が心配?	P.20
もしあなたの症状が悪化したら	P.22
患者さんの体験談	P.26
キャサリン・マッキューさん、Hope Tree のご紹介	P.30

Q1. 病気のことをどのくらい
思春期の子どもに話したほうがいいのでしょうか？

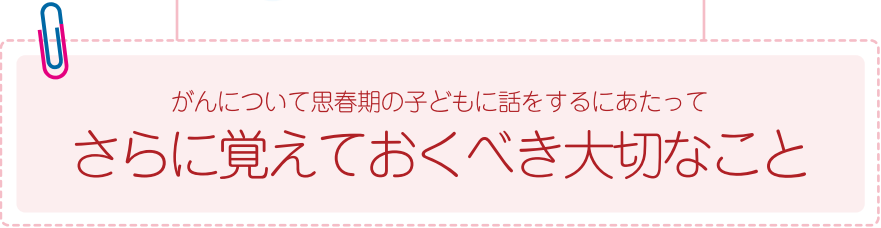
A1. 思春期の子どもたちには、
くわしく、正しい情報を提供してください。

ある家族のお話

治樹（16歳）と妹のみお（13歳）の両親は、父親が白血病と診断されたことを子どもたちに隠し通せるものだと思っていました。しかし、両親が何度も電話でひそひそと話をしている声が聞こえたり、寝室に移った後に母親が泣いたりしているようなので、治樹とみおは自分たちの親に何があったのかを知りたいと思いました。そんなある晩、治樹と父親は家事について言い争いになり、そのとき、治樹はついに自分がどれくらいイライラしているのか、自分の気持ちを打ち明けることにしました。それを聞いて、父親は子どもたちに真実を告げなければならないと感じました。治樹とみおは一度は家族の情報から取り残されてしまったことに腹を立てましたが、両親から父親の病気のことを告げられたことで、以前にも増して両親に協力的で、思いやりをもって接するようになりました。

がんについて思春期の子どもに話をするにあたって
覚えておくべき大切なこと

- ・ 思春期の子どもはたいてい真実を知りたがっています。
- ・ 家族に生じた変化が何なのか子どもに理解してもらうために、“がん”というこ
とばを使いましょう。
- ・ 思春期の子どもに真実を伝えたほうがいい理由はたくさんあります。子どもの親
に対する信頼感が増し、子どもが孤独を感じる機会が減るだけでなく、子どもの
責任感や共感する力が育ちます。
- ・ 思春期の子どもは悲しいこと、恐ろしいことについて考えることを避けるもので、
それでもいいのです。距離をもって過ごそうとすることも健全な対処方法です。



がんについて思春期の子どもに話をするにあたって
さらに覚えておくべき大切なこと




・がんについてさらに情報を得るとき、インターネット上にどのような情報やウェブサイトがあるのか、またどのような情報は有益でないのかを子どもに伝えてあげてください。

・家族間のコミュニケーションをオープンに保ちましょう。

・思春期の子どもに、あなたが抱えている心配事や考えをすべて伝える必要はありません。子どもの日常生活に影響を与えることだけで充分です。

・思春期の子どもは、親ががんという事態に向き合うことで、いい状況のときだけでなく、悪い状況のときにも対処することを学んでいきます。それは子どもが大人へ成長する過程において貴重な体験です！



POINT! コミュニケーションのポイント！

- 思春期の子どもにどのくらい話したらいいかは、その子と話すと分かります

あなたのがん治療の中で、子どもがどのような情報を、どのように提供してほしいと思っているのか、本人にたずねるようにしてください。思春期の子どもはがんについて話したくないことがよくあることを覚えておいてください。あなたの子どもががんについてあまり知りたくないと言ったら、その意思を尊重してあげてください。

- こんな風に質問してみましょう

- ・お医者さんから検査結果を聞いたら、あなたにも伝えたほうがいい？
- ・私たちがお医者さんから悪い話を聞いたら、あなたはすぐに聞きたい？
- それとも、あなたの生活に影響したり、生活が変化する話だけでいい？

Q2. 子どもが親のがんとつきあっていくには
どうしてあげるのが一番いいのでしょうか？

A2. 張りつめた気持ちを緩め、うまく対処していくのに
役立つ活動を続けるよう後押ししてあげてください。

ある家族のお話

さら（14歳）の母親が乳がんになったとき、家族は治療に忙しく、やむなく彼女が器械体操の教室に通うのをやめてもらうことにしました。そんなある日、母親はさらが部屋で泣いているのを見つけました。母親はさらがここ最近深く悲しんでいるようだったので、がんのことで泣いているのだと考えていました。しかし、よくよく話を聞いてみると、さらが泣いていたのは、器械体操の教室に行けなかったからだったのです。さらにとって器械体操をしている時間だけが、心配事についてあまり考えないですむ時間でした。そこで、家族はさらを器械体操の教室に復帰させ、彼女の悩みは格段に軽減されました。

思春期の子どもが親のがんとつきあっていくのをサポートするにあたって

覚えておくべき大切なこと

- ・身体を使った活動は、思春期の子どもの健康的なストレス解消に大いに役立ちます。スポーツなどの活動を後押ししてあげてください。
- ・音楽は、思春期の子どものストレス解消法として、大きな助けとなってくれます。
- ・自分の思いを綴ることや日記をつけることは、思春期の子どもにとって非常に意味のあることです。また、とてもプライベートなものなので、その行動を尊重してあげてください。
- ・笑うことを忘れずにいてください！ がんという状況がどれほど深刻でも、ユーモアを見つけるようにすれば、ストレスが和らぎます。

Q3. がんについて親と話したり、質問したりするのが嫌みたいです。それは普通のことなのでしょうか？

A3. 子どもが考えを心の中にしまっておくことは、いたって普通のことです。これは、プライバシーを保ち、親から独立する過程でもあり、思春期の子どもにとって最も重要なことです。

ある家族のお話

浩輔は16歳のときに、父親が肺がんであると診断されました。両親は診断について、こと細かに浩輔に伝えていましたが、浩輔ががんについての話し合いをことごとく避けているようなので、心配をしていました。両親は浩輔がどれくらい状況が深刻なのか、理解していないのだと考えていました。そして、あるとき母親は「父親のことを考えていない」と浩輔を責めたのです。すると浩輔はこう答えました。「父さんのことは大切に思っているし、愛してもいる。だけど、母さんたちみたいにがんについてばかり話していたら、学校とか友だちとか、家族以外のことを何も考えられなくなってしまうのが分からないの！」

思春期の子どもが親と話そうとしないとき 覚えておくべき大切なこと

- ・思春期の子どもが感じていることや恐れを、無理やり話させないようにしてください。
- ・ソーシャルメディアや、日記などに子どもが書いたもののプライバシーを守ることは、思春期の子どもが自立していく過程で重要なことです。しかし、もし子どもが自分が書いたものを読んでほしいと言ったり、ブログのように一般に公開されているものを書いたりしていたら、おそらくその子は間接的に自分の心配事をあなたに伝えたいと思っているということです。そのときは見過ごさないようにしてあげてください。
- ・がんの問題になると、人は自分の人生なのに、自分ではどうにもできないという無力感にとらわれることが多々あります。それは特に思春期の子どもにとってつらいことであり、そのつらい気持ちが怒りや問題行動となって表れることがあります。子ども自身が選択したり、決定したりできることは、できるだけ子ども自身に任せてあげるようにしてください。

Q4. いまは子どもにとって、つらい時期なので
問題行動や学校でのトラブルは
いつもより大目にみてやったほうがいいのでしょうか？

A4. ルールや常識だと思うことについては、
一貫性を保ってください。
でも、ストレスのせいで家庭内のルールを
守るのが難しいときは、理解を示してあげてください。

ある家族のお話

大輝（15歳）は、いつも幼い弟の翔太（4歳）の世話係をしていました。大輝は翔太に我慢強く、優しく接していましたが、父親が大腸がんと診断されると、両親は治療に忙しくなり、ふたりの息子の面倒をみることができなくなったため、自然と大輝が翔太の面倒をみるが多くなりました。母親は大輝がイライラして、態度が悪かったり、翔太にきつく当たって、怒鳴ったりしていることに気づきました。おそらく父親のことでストレスや心労が重なったせいだと分かっている

たので、最初は大輝を叱りたいとは思いませんでした。しかし、あまりにも大輝の行動が目にするので、母親は彼を注意することに決めました。すると、大輝はいきなり泣き出して、弟に対して不当な態度をとったことを認めました。そして、自分の気持ちを打ち明けました。「母さんたちには僕たちに割く時間なんてないんだ！僕が翔太に意地悪したとき、どうしてもっと早くに注意してくれなかったの？僕たちのことが気にならないの？」。母親は大輝の行いに目をつぶることで、通常のルールに対する一貫性を失い、大輝を不安にさせていることに気づきました。彼女は家族に意識が向いていなかったことを謝り、良いことも悪いことも見過ごさないと約束をしました。以前であれば、母親は大輝にペナルティを課していましたが、家族の状況を考え、大輝がイライラしたり、心配事があったりするときは自分のところに話に来てほしい、と伝えるにとどめることにしました。

理解を示しながら、一貫性を保つにあたって

覚えておくべき大切なこと

- ・病気になったからといって、変えてはいけないことがあります。学業を頑張る、礼儀を守る、他人に敬意を払う、スケジュールについて家族のルールに従うなどです。
- ・家族にがん患者がいることで、いまは人生においてつらい時期にあることを認めてあげてください。しかし常識的な範囲内のことは守ってもらうようにしてください。

- ・子どもが良くないことをしたら、家族ががんになる前と同じルールで、接するようにしてください。
- ・子どもには余裕をもたせてあげてください。たとえば、ゴミを出すのにだいぶ時間がかかってぐずぐずしていても、受け入れてあげてください。

Q5. どうして子どもはこんなに家族が大変なときに、
家族よりも、友だちと一緒にいたがるのでしょうか？

A5. 思春期の子どもにとって、家族より自分の友人や、
ときには親以外の大人を一番に頼るのはよくあることです。
成長し、親から独立していく過程において、
健全なプロセスの一環です。

ある家族のお話

みく（16歳）には大の仲良しグループがいて、ここ1年ぐらいいかほどの時間を共にしていました。中でも、親友のさきには、人生やあらゆる問題について、事あるごとに相談をしていました。そんなある日、みくの母親が脳腫瘍と診断されました。しかし、みくは家にいるよりも、これまで以上にさきの家で過ごすようになったのです。さきの母親はみくの母親に、ふたりの少女ががん



ついて熱心に話し込んでいることを伝えました。みくの母親は、自分の娘が友人や、ましてやその母親を頼りに相談していることに心を痛めました。そして、母親がそのことをみくに打ち明けると、彼女はこう言いました。まず、みくは母親を泣かせたくないとのことでした（過去に話し合おうとしたとき、母親がよく泣き出したのです）。そして、口出しされずに、ただ自分の話を聞いてほしいとのことでした（みくの母親には難しいことでした）。最後に、話がきつくなってきたとき、友人のさきなら、他のことを考えるように助けてくれるというのです。みくは母親と話したり、母親の様子を目の当たりにしていると、がんについてしか考えられなくなると話しました。その話を聞いて、みくの母親はどうしてみくがそんなに友人と話をする必要のあるのかを理解したのです。

友だちや親以外のサポートについて
覚えておくべき大切なこと



- ・子どもが医師などの医療従事者に話すことを認めてあげてください。思春期の子どもは親よりも権威のある人を信じる傾向があります。
- ・がんについてだれが把握しているのか、思春期の子どもがだれにだったら気軽に相談できるのかを明確にしてあげてください。
- ・思春期の子どもは、友人にはいままでどおり接してほしいと感じることがあります。
- ・思春期の子どもが友人と過ごしたがることは、わがままでも、親を軽視しているわけでもありません。思春期の子どもにとっては普通のことです。

友だちからのサポートについて
さらに覚えておくべきこと



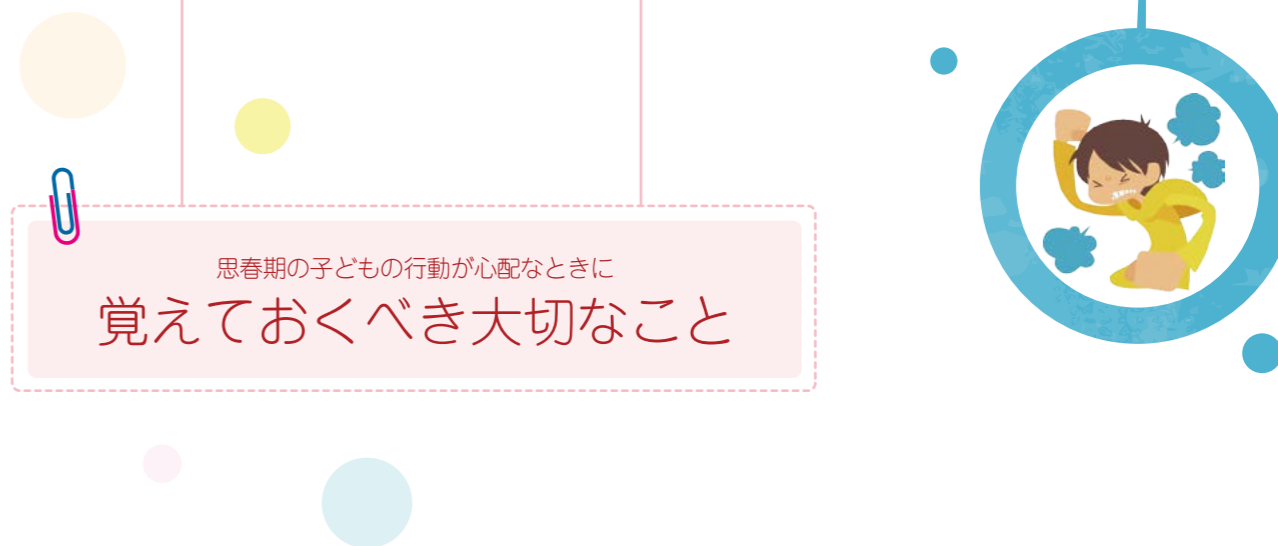
- ・思春期の子どもは友だちと一緒にいることで、家族に関する心配事から気持ちを逸らしやすくなります。大人はがんのことを考えないでいることは非常に難しいでしょうが、子どもはとても健康的な方法として、少なくとも少しの間、気を逸らすという方法を使う能力を持っています。
- ・思春期の子どもにとって友だちは最大の助けとなりますが、彼らは時として誤ったことをしたり、言ったりすることがあります。あなたの子どもが友だちから心配になるようなことを言われたら、そのことを親に相談するように伝えておきましょう。
- ・一方、思春期の子どもは心配のあまり四六時中家にいて、友だちと過ごそうとしないときがあります。家庭生活と外部の友人関係との間でバランスを取るのをサポートしてあげてください。

Q6. 子どもが私を心配させるような変化や行動をみせるようになってきたのですが、これはがんのせいですか？
どう対処したらいいのですか？

A6. 子どもの気分や行動に、変化や社会のルールに反するようなことがあったら、気づいてあげるのが親としての責任です。
そのような場合は、直接子どもと話し合しましょう。

ある家族のお話

ケイは17歳で、彼の両親は「正直に生きること」といった正しい価値観を常日ごろからケイに教えていました。しかし、彼の母親が乳がんだと診断されて間もなく、家の中に置いている財布からお金がなくなるようになりました。両親はおそらく母親のがんと診断されたことでケイに大きなストレスがかかり、財布からお金を盗むようになったのだろうと考えました。両親はケイを注意すべきか迷いましたが、やはり事態は深刻であると判断し、ケイと話をすることにしました。当初ケイは盗みについて頑として否定しましたが、最後には自分がお金を盗ったことを認めました。ケイがお金を盗ったのは友だちに自分の力を誇示したかったからであり、がんとはあまり関係がないようでした。両親は、盗みをやめないとどういう結果が待ち受けているかをケイに明確に伝え、そのうえで彼には、家のお手伝いをする報酬として、お小遣いを渡すことにしました。両親はがんのことでケイの助けが必要だったからです。それ以来、ケイの盗みはピタリと止まりました！



思春期の子どもの行動が心配なときに 覚えておくべき大切なこと

- ・あなたの直感を信じましょう！ 子どもの様子が本当におかしいと感じたら、その直感は当たっているかもしれません。
- ・親として、思春期の子どもがもはや安全ではない、もしくは極度に落ち込んでいると感じる理由があれば、子どもたちのプライバシーを守る必要はありません。
- ・問題が起こったとき、思春期の子どもは必ずしもあなたに相談しなければならないとは限りません。しかし、子どもはだれかには打ち明ける必要があります。
- ・問題はあなたのがんにあるとは限りません。思春期の子どもにとって、ストレスの原因はたくさんあります。子どもと話をし、何が問題かを一緒に見つけてあげてください。

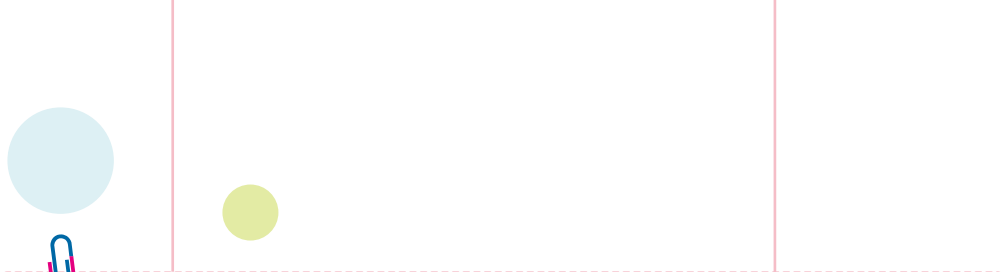
もし あなたの症状が悪化したら

できることなら、あなたがこのページをめくらないですむことを願っています。できることならあなたの治療が成功して、あなたとお子さんが健やかで、幸せな生活を送れることを心から願っています。でも、もしあなたのがんが進行して、残りの時間が短くなる可能性に直面しているのであれば、**どの時期にも増して**あなたが子どもと話をすることが重要になります。

がんの治療過程であなたが危機的な状況にあるときに、あなたが正直でないことほど、思春期の子どもにとってストレスとなり、つらいと感じることはありません。真実を隠そうとすることは、子どもからの信頼が揺らぎ、親子がお互いに向き合う貴重な時間を失い、あなたがお子さんに人生についての大切な教えや希望、愛、誠実さについて伝える機会を損なうこととなります。

あなたが深刻な診断を受けたとき さらに覚えておくべきこと

- ・ 思春期の子どもに自分の死の可能性について正直に話しても、あなたの希望がなくなってしまうということにはなりません。子どもには、まだ希望があることは伝えましょう。死んでしまうかもしれないことを正直に思春期の子どもに話すことは、希望をあきらめなければならない、というわけではありません。子どもには、これからの希望の内容が変わったのだということを説明しましょう。できるだけ多くの時間を過ごせる希望、痛みのない時間を過ごせる希望、思春期のお子さんと特別な体験をもつ希望などです。
- ・ 病気の進行についてお子さんに伝えるタイミングは、最適な時期を待っても大丈夫です。お子さんが試験の真っ最中であったり、大きな旅の準備をしていたり、ボーイフレンドやガールフレンドと別れたばかりであったりしたら、少し時間を置いてください。
- ・ 悪いニュースが舞い込んできたとしても、思春期のお子さんは、あなたのがんのことをずっと考えているというわけではありません。自分自身の人生や欲求について考えることは、重病の親をもつ思春期の子どもにとって大切な気晴らしとなります。



あなたが行う最も難しいこと！！
親の死に思春期の子どもが向き合うのを助ける

※もし、あなたがこの状況に当てはまらないのであり、この先を読んでつらくなるようであれば、この先を読むかどうかは、ご自分で判断してください。

- ・子どもに正直である、ということがやはりとても大切です。子どもは、死についてであっても、真実を求めるのは当然のことです。
- ・これから起こることについて、子どもに心の準備をさせることは、あなたから子どもへの最大の贈り物です。
- ・さよならをいう時間、最後の言葉を伝える時間、終わるという区切りの時間をもつことは、そうできなかった場合より、思春期の子どもが親を失ったときに受ける傷を早く癒してくれます。



- ・死について語ることは難しく、つらいことですが、思春期の子どもが人生に向き合うのを助けてくれます。それこそが、すべての親がお子さんに望んでいることではないでしょうか？
- ・本や記事、専門家と話すことなど、思春期の子どもが親の死とつきあっていくのをサポートしてくれるものはいくつかあります。それを活用してください。
- ・どうか、未解消の問題や、生涯続く悲嘆をあなたの思春期のお子さんに残さないようにしてください。

患者さんの 体験談

内村さん親子

「伝えることで学業に支障が出るのではと心配しましたが、いまは伝えてよかったと思っています。」

内村恒久さん（お父さん） 内村洋輔さん（息子さん）

※ 体験談中の個人名は仮名です

2009年の6月に激しい腹痛に見舞われ、救急搬送されたことをきっかけに、大腸がんであることが発覚した内村智美さん。その息子の洋輔さんが、約2年7ヵ月にわたる母親の闘病生活において、がんのことをどう受け止めていったのか、ご本人とお父さんの恒久さんにかがってきました。

● がんについて、洋輔さんに伝えるきっかけは？

内村恒久さん（お父さん）に聞きました

洋輔は子どものころから医者になりたいとの夢があって、学業を頑張っていたんです。だから、母親ががんだと伝えることで学業に支障が出ることを恐れ、腫瘍摘出の前に夫婦で話し合ったうえで、最初のうちは極力伏せておきました。「いつかは言わなければいけないよ」と折に触れ家内には言っていたのですが、家内は息子の学習意欲の妨げになりたくないとの思いがとても強くて、伝えることに強く抵抗していましたので、なかなかきっかけがつかめませんでした。しかし、2009年の秋に本格的な化学療法を始めなければならないことになって、治療状況が変わることで隠し続けることが難しくなったこと、さらに当時、周囲の助言もあって、洋輔に伝えました。

● お母さんががんだと聞いたとき、どのように感じましたか？

内村洋輔さん（息子さん）に聞きました

薄々は感じていたんですが、がんだとはっきり聞かされたとき、最初はうそだと思いました。でも、そのとき、父が思っていることを全部話してくれたと感じたので、素直に受け入れて母の回復を願いました。がんのことは、父方にがんで亡くなった親戚が多いと聞かされていたし、インターネットでどういう病気なのかを調べたりしたことがあったので、最低限の知識はあったと思います。ただ、母の「他人に心配をかけたくない」という思いから、周りの人、特に母方の祖父に言うのは口止めされていましたので、そのあたりはかなり気を使ったと思います。

● がんだと伝えられる前後で自分に何か変化を感じましたか？

内村洋輔さん（息子さん）に聞きました

物心がついたころから漠然と医者に憧れていたんですが、母のがんのことを話されたことと、その7ヵ月後に父方の祖父が亡くなったことで、はっきりと医学の道に進みたいと思うようになりました。その後、化学療法でつらい思いをしながらもがんと闘っている母と接したり、がんセンターのスタッフの皆さんが母だけでなく僕にもいろいろとしてくださったりしたので、自分もがんセンターで仕事をしたいと思うようになり、これまで以上に勉強を頑張ろうとする意欲が強くなっていきました。自分の頑張りが母の気持ちの支えになるとの思いや、早く医者になって母を治してあげたいという気持ちが、夢への思いを一層強める結果になったと思います。このことに対して、母はすごく喜んでくれていました。

● がんだと伝える前後で洋輔さんに何か変化はありましたか？

内村恒久さん（お父さん）に聞きました

本人は反抗期に差しかかる年ごろでしたから、特に家内は心配して少しの心の変化も見逃さないように気を配っていました。変な寝言を言ったりしていないか、日常の中で何かおかしいことがないかどうか、夫婦でだいぶ観察してきたつもりでしたが、意外にも強いて言うほどの変化は感じませんでした。ただ、家内が仕事を辞めて家計を引き締めたことで、洋輔に我慢をさせざるを得ない部分があったので、洋輔が不満をもっていないか気になっていました。しかし、彼は親が思った以上に素直かつ真面目に成長してくれていたようで、自分のすべきことをしっかりと理解して過ごしていると感じました。

● ご自分の経験を通して読者に伝えたいことは？

内村洋輔さん（息子さん）に聞きました

保健の授業で思春期とはどういうものか習いましたが、実際に自分が思春期を迎えている感覚はないですし、自分が典型的な思春期の子どもなのかも分かりません。だから、僕としては思春期の人にといいよりは、ただ読者の方々に自分の経験を伝えたいと思います。もちろん両親の「伏せておきたい」という気持ちは痛いほど分かります。でも、子どもの立場に立ってみると、親はたった“ふたり”しかいない、かけがえのない存在なんです。だからこそ一緒に時間を大切に過ごしたいと考えるのは自然なことだと思います。もちろん小さな子どもだと難しいかもしれませんが、ある程度がんのことを冷静に受け止められる年代になったら、やはり親がありのままを伝えることは大事だと思います。もうひとつ、子どもがひとりで抱え込むことは本当につらいことですので、肉親以外でもいいですから、だれかサポートする人がいたほうがいいと感じています。

● ご自分の経験を通して読者に伝えたいことは？

内村恒久さん（お父さん）に聞きました

中学生くらいになると現実的なことが見えてきますので、がんのことを受け止めるうえで、いろいろと難しいことがあったかもしれません。幸い洋輔の場合、中高一貫校だったので高校受験はありませんでしたが、もし受験生だったら、もっと状況は深刻だったかもしれませんね。がんについて、人によっていろいろな受け止め方があると思いますが、自分の経験から言えば、家族で旅行に行くなどの思い出づくりも家族としての過ごし方かもしれません。ただ、療養生活を考えると、症状が進んでからではできなくなってしまうことがあると思いますので、患者本人がまだ元気なうちに、やれること、やりたいことを家族みんなで話し合う機会だけでも設けておけばいいのかもしれない。がんのことを子どもにいつ伝えるべきか、私の場合、相当、悩みに悩み抜き、結果的に伝えるタイミングがかなり遅くなってしまいました。しかし、早く伝えておけば周囲も患者家族をサポートしやすいかもしれません。そういった意味では、「がんのことを子どもに伝えるのは早いほうがいい」というのがいまの結論です。



洋輔くんを医療者の立場からサポートした
臨床心理士Iさんからのコメント

智美さんからは、洋輔くんへの思いをいろいろと聞かせてもらい、洋輔くんとも何度かお話をする機会がありました。当手を振り返って、洋輔くん「大変な状況を受け止めることができたのは、何が支えになった？」とたずねると、「母の状態を話してくれるIさんが、僕を信じてくれているのが分かったから」と答えてくれました。洋輔くんに限らず、子どもの力を信じて大人が誠実に向き合えば、子どもはこちらの想像をはるかに超えて、その子なりのやり方で困難を乗り越えることができると実感しています。

キャサリン・マツキューさん
のご紹介



チャイルド・ライフ・スペシャ
リスト、ソーシャル・ワーカー、ほか。
40年のキャリアの大半を様々な医療施設で
家族と子どもを支援。ここ10年は心の傷になる
出来事に直面している大人と子どもを支援する
ことに力を注いでいます。“How to Help
Children Through a Parent's Serious
Illness”をはじめとして著書多数。

[略歴]

2000年より、オハイオ州にあるザ・ギャザリング・
プレイス（がん患者及びその家族を力づけ教育する
サポート・センター）で、子ども対象のプログラムの
ディレクターを務める。

1984年から現在までアクロン大学で非常勤助教として
チャイルド・ライフ・スペシャリスト・トレーニング・
プログラムを教授。

1975年に心理学博士を取得。

Hope Tree
のご紹介

Hope Tree は、チャイルド・
ライフ・スペシャリストや小児科医、子ども
の心理を扱う現場で働く臨床心理士、成人のがんを主
に診ている看護師や医療ソーシャルワーカーにより日本で
結成されたグループです。「成人医療の現場で子どもの存在
を忘れてはいけない」、「子どもも含めた家族全体の支援が必
要」という視点で、周囲の大人がそれぞれの子どもの個性
を尊重して適切にサポートできるよう備えるための情報
をホームページなどで提供しています。

<http://www.hope-tree.jp/>